

海外安全対策情報（平成30年4月～6月）

1 社会・治安情勢

(1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ事件発生件数はパキスタン軍等によるテロリスト掃討作戦により、2009年をピークに減少傾向にあるものの、引き続きテロ案件は発生しており、警戒を要する。テロの件数等は前期（2018年1月～3月期）に比して7件減少（76件→69件）し、死者も24名減少（115名→91名）したが、負傷者は36名増加（171名→207名）した。（パキスタン平和研究所調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラード・ウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等一定の成果を収めている。今期においても、単独又は少数犯による自爆、襲撃及び簡易爆弾（IED）攻撃が主要なテロの手段として見られ、その標的は軍・治安当局とその関連施設がほとんどであったほか、民間人に対するテロも数回発生した。また、カシミールのパキスタン・インド管理ライン（LoC）では依然として両軍による局地的な衝突が断続的に発生しており、今期も多数の民間人が死傷するなど、今なおカシミールにおける両国の軍事的な緊張は続いている状況である。

6月13日、米国のドローン攻撃により、ムッラー・ファズルッラーTTTP代表指導者が殺害され、報復テロが懸念される。

イ 今期、当館管轄地域では、パンジャブ州アトックで自爆テロが発生したほか、引き続きKP州及び連邦直轄部族地域（FATA）を中心に多くのテロが発生した。犯行形態の多くは、軍又は治安当局を主な標的とする自爆、IED及び標的殺人といった手法であった。また、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件が前期に続き多く確認された。こうした状況から、治安当局による厳格な対応は確認される一方、都市部においてもテロの脅威は存在し、テロの可能性は排除されないと考えられる。

ウ 5月31日、パキスタン下院の任期が満了し、7月25日に総選挙が実施される予定である。過去の総選挙時には候補者間の対立による殺人、傷害事件、政党事務所を狙ったテロ攻撃が発生するなど、治安が不安定化した経緯がある。今期も政党事務所前でテロ攻撃が発生しているため、注意を要する。

(2) デモの傾向

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による政府機関に対する労働環境改善要求等の抗議活動が行われる傾向にある。今期においては、首都イスラマバード近郊において大規模なデモが発生したほか、小規模なデモは国内各地で行われた。

ア 4月12日、新興宗教政党TLPは、2017年11月にイスラマバード

で行った座り込みの收拾のための政府との合意の効力終結を宣言し、構成員に対して全国の主要道路を封鎖するよう呼びかけた。活動家は、ラホールの全ての出入口を封鎖し、ラワルピンディを始めとするパンジャブ州各地で座り込みを行った。

イ 7月25日の総選挙の実施に伴い、パキスタン各地で候補者や政党の選挙活動が活発に行われており、各地で大規模な政治集会やデモが行われている。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人被害事案

なし。

(2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生しており、今期は、多くの外国人が使用するマーケットにおいても強盗事件が発生した。治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

○ 2017年12月には、イスラマバード市内の中国人女性宅に3人組の武装強盗が押し入り、悲鳴を上げた中国人女性に発砲し、50万ルピーを強奪する事件が発生した。女性はその後死亡した。

○ 5月27日、イスラマバード市内マルガラ丘陵において、武装強盗が出没し、通行中の車両に銃を発砲した。

(3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバードは富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に荷担する事件が時折発生している。昨年9月にも、ラワルピンディ市内において、中国人が帰宅途中に金品を強奪され、警察による捜査の結果、同中国人の元運転手が事件の手引きを行っていたことが判明した。

(4) 名誉殺人

当地では、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される名誉殺人が跡を絶たない。パキスタンの保守的なイスラム社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。

(5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことも少なくなく、実態は把握できていない。

(6) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

ア 4月20日、イスラマバード市内G-14セクターにおいて、鞆に隠匿されて放置されていた自爆ベストや手榴弾、拳銃、弾薬等が押収された。

イ 6月19日、イスラマバード市内I-10セクターにおいて、治安機関員が草むらの陰に置かれていた手榴弾1個を発見・押収した。

3 2017年5月から2018年6月までのテロ事件発生状況

5月	39件、死者	71名、負傷者	107名
6月	19件、死者	117名、負傷者	244名
7月	43件、死者	86名、負傷者	122名
8月	36件、死者	70名、負傷者	136名
9月	25件、死者	32名、負傷者	74名
10月	31件、死者	59名、負傷者	142名
11月	32件、死者	51名、負傷者	78名
12月	29件、死者	36名、負傷者	132名
2018年			
1月	27件、死者	40名、負傷者	70名
2月	24件、死者	38名、負傷者	46名
3月	25件、死者	37名、負傷者	55名
4月	29件、死者	44名、負傷者	98名
5月	21件、死者	31名、負傷者	75名
6月	19件、死者	16名、負傷者	34名

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等 (報道ベース)

- 4月1日、パキスタンの情報機関は、イスラマバードに住む中国人に対する脅威情報を入手し注意報を発出し、イスラマバード警察署長は関係者に対して中国人に対する安全確保のために警戒レベルを上げるよう要請した。
- 4月4日、パンジャブ州カネワル (Khanewal) 地区において、バハワルプール (Bahawalpur) からファイザラバード (Faisalabad) へのM4高速道路の建設工事に従事している中国人工事関係者とパ警察が口論となり、中国人側数名が、警察官を突き飛ばし警察車両の上に乗る等の暴行を加えた事案が発生した。
- 4月10日、FATA クーラム管区で治安当局と情報機関が合同捜査を行い、3人のテロリストを拘束し、爆発物を含む武器を押収した。3人のテロリストは自爆テロ、自動車爆弾及び即席爆発装置 (IED) を使用したテロに関与したとされる。
- 4月11日、パキスタン側カシミールの複数箇所に対してインドによる管理ラ

イン (L o C) を超えた攻撃があり、少なくとも19名が負傷した。

- 4月12日、パキスタン側カシミールのコトリ (Kotli) 地区クイラッタ郡 (Khuiratta tehsil) セリ (Seri) 村で、印側カシミールから管理ライン (L o C) を超えた砲撃があり、文民4名が負傷した。
- 4月14日、イジャーズ・ウル・アッサン (Ijaz-ul-Ahsan) 最高裁判事の自宅が2度にわたり銃撃を受けた。
- 4月14日、パキスタン側カシミール、コトリ地区の文民に対して印側カシミールから越境攻撃があり、文民2名が負傷した。
- 4月15日、アフガニスタンからの越境銃撃により、辺境警備隊 (F C : Frontier Corps) 要員2名が死亡、5名が負傷した。攻撃はアフガニスタンのコーホスト (Khost) 県からパラチナルの25 km南方に位置する下クーラム管区のLaka Tiga 地区のF C監視所に対して行われた。
- 4月17日、パキスタン・イラン国境のイラン側、シスタン・バルチスタン州のミールジャベ (Mirjaveh) 市の国境監視所で、イラン警察官1名が待ち伏せ攻撃を受け死亡した。また、イラン兵2名が乗車中の車両に対するIED攻撃により死亡した。
- 4月18日、FATAハイバル管区Tirah 峡谷 Akakhel のDars Jummat 地区において、IEDの爆発があり2名が重傷を負った。
- 4月18日、パキスタン側カシミールのハジラ (Hajira) 郡バタル (Battal) 地区で、管理ラインから200フィート離れた住宅に住む少女が庭先で印側から狙撃を受け、イスラマバードの病院に搬送されたが、19日死亡した。
- 4月20日、テロ対策局 (CTD) は、KP州ラッキ・マルワット (Lakki Marwat) にて、自爆テロ準備者を含むテロリスト容疑者を逮捕し、テロ攻撃を防いだ。関係者によれば、容疑者はパキスタン・タリバーン運動 (TTP) に属していた。
- 4月22日、FATA北ワジリスタン管区ミランシャー (Miramshah) 近郊で路側からのIED爆発があり、ミランシャーからDatkhel 地区へ向かっていた軍用車列に乗車していた兵士1名が死亡、3名が負傷した。
- 4月23日早朝、イラン国境警備隊による越境砲撃が行われ、パキスタンのバルチスタン州チャガイ地区 (Chagai district) ノコンディ地区 (Nokondi area) Rajaay 村及びGawalshap 村に着弾したが、居住区から離れた場所に着弾したため、被害はなかった。
- 4月24日、KP州DIカーン郡 (DI Khan District) ダルバン (Darban) のZarkanai 地区で移動中の治安部隊車列に対して武装勢力により設置されとみられる無線制御されたIEDが爆発し、兵士1名が死亡、3名が負傷した。
- 4月25日、治安部隊は、KP州ラッキ・マルワット (Lakki Marwat) 地区のサライ・ノウラング (Sarai Nourang) とコッカシャ・グリカン (Kotkashah Gulikhan) において、自爆犯2人を逮捕した。
- 4月26日、パキスタン側カシミール (A J K) のChamb セクターで、印軍兵士による印側からの砲撃があり、少なくとも住民2名が死傷した。

- 5月1日、警察当局はK P州ノウシェラで掃討作戦による捜索を行い、110人を逮捕し、カラシニコフ1丁、ピストル2丁、および盗難されたバイクを押収した。
- 5月2日、FATAモーマンド管区のアマーン・グンディ地区で、兵士が移動中に路肩で爆弾が爆発したが、負傷者は発生しなかった。爆発後、治安機関が付近を探索し容疑者2名を逮捕した。
- 5月3日、アトックのドクガマで、8キロの爆発物を乗せたオートバイがバンにぶつかり自爆し、3人が死亡、18人が負傷するテロが発生した。犯行声明は出ておらず、テロの動機は不明。
- 5月4日、イスラマバード市郊外地区北西部のタルノル (Tarnol) 警察署は同管轄地区内で治安維持のための捜索作戦を行い、アフガニスタン人4名を含む被疑者19名を逮捕し、ピストル1丁を押収した。
- 5月4日、FATA南ワジリスタン管区のラドハ・マキン (Ladha Makin) で情報に基づく作戦 (IBO: Intelligence-based Operation) を実施し、大量の武器 (ロケット・ライフル等) 及びIEDやRPG7等を含む爆発物、弾薬を地下の隠れ家から押収した。また、治安機関はバロチスタン州コホル (Kohlu) でもIBOを実施し、大量の武器・弾薬を回収した。
- 5月7日及び9日、FATA北ワジリスタン管区において、女学校2校が爆破された。
- 5月14日、北ワジリスタン管区ミランシャーのボヤイ・バイパス付近で、3名の治安部隊要員が道路脇の爆発により負傷した。政府関係者によると、身元不明の容疑者たちがオートバイで爆発物を仕掛け、部隊車両が同地域を定期巡回中に爆破させた模様。
- 5月16日、パキスタン軍はバロチスタン州キリ・アルマス (Killi Almas) 地区において、IBOにより、ラシュカレ・ジャングビ (Le J) バロチスタン州指揮官であるサルマン・バデニ (Salman Badeni) と2名の自爆志望者の計3名を殺害した。バデニは、100名以上のハザラ地域住民と警察官の殺害に関与したとみられている。
- 5月17日、ノウシェラのFC車両が自爆攻撃に遭い、6人の治安要員を含む、少なくとも10人が負傷した。
- 5月21日、印国境警備隊 (BSF) がパンジャブ州シアルコート付近の実効支配線 (Working Boundary) 沿いのCharwah 区域にあるバドワール (Badwaal) 監視所に対して迫撃砲と重火器による一方的な砲撃を行い、パンジャブ・レンジャー要員1名が死亡し、3名が重傷を負った。
- 5月23日、印国境警備隊 (BSF) がパキスタン・パンジャブ州のシアルコート実効支配線 (Working Boundary) 沿いの村々に対して迫撃砲による砲撃を行い、住民1名が死亡し、9名が負傷した。
- 5月24日、郡当局者を含む暴徒数百名が、パンジャブ州シアルコートでアフマディ派の歴史的建築物2棟を破壊した。

- 5月26日夜、テロ対策局（CTD）は、I B Oを実施し、少なくとも6名のT T P所属テロリストを殺害した。CTD報道官によると、殺害されたテロリストの中には、最重要指名手配犯であったサルゴダの **Muhammad Suhaib** も含まれていた。
- 5月30日、旧F A T Aバジョール管区（Bajaur Agency）モーマンド郡（tehsil）Malanagi 地区において、身元不明の武装犯たちが自動小銃によってモスクを攻撃し、宗教組織タブリーギ・ジャマート（Tableeghi Jamaat）のメンバー1名が殺害され、3名が重傷を負った。
- 6月2日、K P州北ワジリスタン部族郡（旧F A T A）のKam Sarubi 地区で、襲撃があり、政府職員1名が死亡し、兵士3名が負傷した。
- 6月3日、K P州南ワジリスタン部族郡（旧F A T A）のワナ（Wana）で、武装勢力とアフマドザイ・ワジール（Ahmadzai Wazir）族の間で戦闘があり、武装勢力2名が死亡、双方から12名が負傷した。
- 6月3日、K P州バジョール部族郡（旧F A T A）及びバロチスタン州Qumar Din Qarez 地区の国境においてアフガニスタン側から侵入したテロリストによるパキスタン国境監視所及び国境フェンス設置作業者に対する攻撃があった。パキスタン軍は反撃を行い、テロリスト6名を殺害した。
- 6月7日、K P州下ディール郡マイダン地区Suri Pao 村の道路脇での警察車両に対するI E D爆破により警察官1名、同車両運転手1名、及び市民1名が死亡し、警察官2名が重傷を負った。
- 6月8日、管理ライン（Line of Control : L o C）を越えた印軍による一方的な停戦違反により、A J Kコトリ（Kotli）地区で迫撃砲の破片に当たった男女1名ずつが負傷した。
- 6月12日、A J K国境沿いのPoonch 地区Abbaspur 郡（tehsil）Taroti Dharamsal 村で、家畜番をしていた男性1名が、印軍のL o Cを越えた一方的な狙撃により死亡した。
- 6月15日、K P州（旧F A T A）北ワジリスタン部族郡で、アフガニスタン側からの越境攻撃が発生し、パキスタン軍が応戦した。これによりテロリスト5名が死亡し、軍側も3名が死亡した。
- 6月22日、印側カンミールのSrigufwara 地区南部で、印軍とミリタントの間で銃撃戦が起き、ミリタント4名が死亡した他、警察官1名と巻き添えになった市民1名が死亡した。その後、これに抗議する市民のデモに印軍がペレット弾及び催涙弾を発射し、少なくとも20名が負傷した。

5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が断続的に発生しており、誘拐事件発生に関する報道は比較的多い。誘拐・脅迫事件の背景としては、過激派又は武装組織による誘拐事件を利用した政府等への要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、単に一般犯罪者が、強姦

等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していない。しかしながら、2017年5月にクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生していることから、活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、先ずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられたり、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待出来ない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)